



2024年3月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社 駒井ハルテック 証券コード：5915

2023年11月28日

目次

1.	会社概要・強み	P. 3
2.	2024年3月期 第2四半期決算概要	P. 11
3.	2024年3月期 業績予想	P. 21
4.	市場環境・成長戦略	P. 23
5.	Appendix	P. 40

会社概要・強み



■ 会社概要

街をつなぐ・支える・守る

商号	株式会社駒井ハルテック（英訳名 KOMAIHALTEC Inc.）
設立	1883年（明治16年）創業
本社所在地	東京都台東区上野一丁目19番10号
従業員数	633名（2023年3月末・連結）
資本金	66億1,994万円（2023年3月末）
事業内容	<p>【橋梁事業】 橋梁の設計・製作及び現場架設、鋼橋の現場工事の施工及び維持補修</p> <p>【鉄骨事業】 鉄骨・鉄塔の設計・製作及び現場建方</p> <p>【インフラ環境事業（再生可能エネルギー・海外インフラ事業）】 風力発電システム及び太陽光発電システムの設計、製作、施工</p>
関連会社	<p>【連結子会社】</p> <p>東北鉄骨橋梁（株）・・・ 鉄骨・橋梁</p> <p>（株）シップス・・・ 印刷・不動産</p> <p>KHファシリテック（株）・・・ 鉄骨・橋梁</p>

■ 経営理念

夢を架け 空間を創る

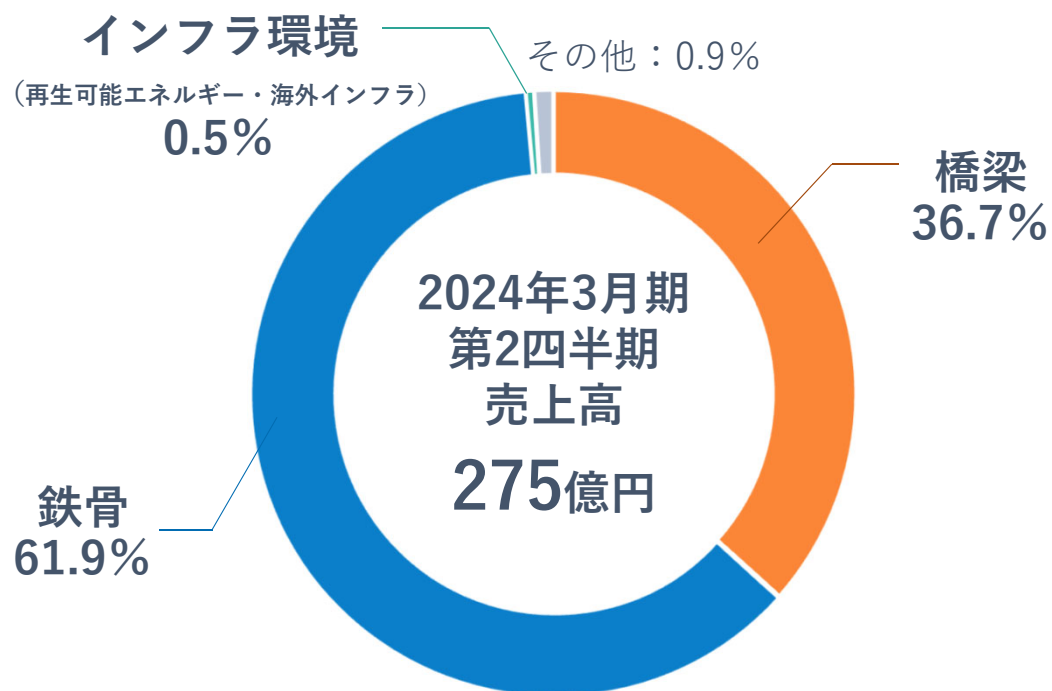
経営理念

高い技術力で夢のある社会づくりに貢献する

顧客のニーズに応え、安全で高品質な製品・技術を提供することで
社会インフラをささえる企業

■ 売上構成

「橋梁」と「鉄骨」に軸足をおき、
安全安心なインフラで社会に貢献し続ける数少ない企業



橋梁事業

鋼橋の設計・製作・現場施工、橋梁の
予防保全・維持補修工事にも取り組む

鉄骨事業

超高層ビルをはじめとした
数多くの著名建築物に鉄骨を納入

インフラ環境事業

(再生可能エネルギー・海外インフラ事業)

日本唯一の中型風車メーカーとして、
国内外の厳しい気象、立地条件でも
トータルサービスを提供

橋梁 業界トップクラスの橋梁メーカー

- 耐震補強・老朽化等の補修・補強工事でも、安心・安全な社会づくりに貢献
- 近年は鋼橋分野だけでなく、鋼・コンクリート複合橋梁や老朽化した橋梁の長寿命化のための予防保全工事などにも積極的に取り組む



市場環境

- 橋の新設・メンテナンスを含む土木工事需要の増加
 - 国土強靱化策に伴い高速道路・鉄道などの橋梁工事の増加
 - 高度成長期に建設された橋梁のメンテナンス需要が増加
 - 大阪湾岸道路西伸部や高速道路の4車線化などインフラ整備が進行中



橋梁建設のワンストップソリューション

積算から現場施工まで橋梁建設のすべてを担う



鉄骨 国内有数の「Sグレード」認定2工場を保有

- 鉄骨の業界トップ企業として、官公庁庁舎や超高層オフィスの建設に貢献
- BIM設計、製造、施工まで、すべての工程を担うことが可能
- 溶接加工などの施工データの蓄積をベースに、客先から評価される高度な技術を保有



市場環境

■ 高度な技術を要する大型案件の増加

- 東京オリンピック・パラリンピックで延期されていた首都圏再開発案件が再開
- 日本橋、八重洲、大手町、品川、新宿、六本木などで超高層ビル建設が、今後目白押し
- 高度成長期に建設された建造物の維持管理需要が増加



2工場でSグレード認定を取得し大型案件に参画

工場グレード



超高層ビルの難易度の高い鉄骨製作が可能なのは
Sグレード工場のみ

板厚の制限
なし

高度な
溶接技術

万全な
品質保証体制

- 国土交通省の厳しい審査を経て認定
- 当社グループの2工場を含め、日本国内では20工場のみ（2023年4月1日現在）

インフラ環境
(再エネ・海外インフラ)

唯一国内で風車製造、電力需要に合わせた 地域マイクログリッドに対応

- 橋梁・鉄骨事業で培った高度なノウハウを活かし、日本の風土に適した風力発電システムを製造、建設、17年の実績
- 風況調査から建設工事、保守点検まで、トータルソリューションを提供
- 離島のマイクログリッドにも対応



市場環境

■ 風力発電のニーズが増加

- ・ 環境にやさしいクリーンなエネルギー
- ・ 政府による導入目標の明示
- ・ 大量投入・コスト低減・経済波及効果期待
など

■ 中型風車のニーズが増加

- ・ 離島や日本に多い山岳地にも対応可能
- ・ 大型に比べて建設が容易
など

過酷な地形・気象条件に適した風車の開発

大型機が導入できない離島や遠隔地での導入が可能

中型風力発電機「KWT300」開発

- 台風仕様
- 標準仕様
- 寒冷地/極寒冷地仕様



台風や乱気流に
強い

高い輸送効率と
施工性

電力系統へ
スムーズに接続

- ・ 世界でも類を見ない毎秒90mの耐風速を実現
- ・ 厳しい気象条件下で安定した性能を発揮

事例紹介

官公庁庁舎、教育・文化施設、大規模生産施設など多くの著名建築物に
当社グループの製品が納められています

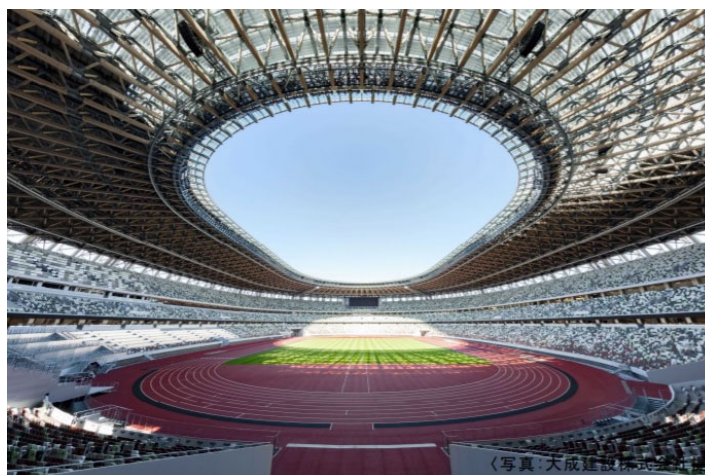
虎ノ門・麻布台地区第一種市街地
再開発事業施設建築物等新築工事(A街区)



© DBox for Mori Building Co.,Ltd.

2023年

国立競技場



大成建設株式会社様提供

2019年

東京スカイツリー®



2012年

2024年3月期 第2四半期決算概要



■ 決算のポイント

2024年3月期 第2四半期累計

売上高	営業利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
27,540百万円 前年同期比 +66.9%	△83百万円 前年同期比 +352百万円 (前年同期実績 △436百万円)	55百万円 前年同期比 +362百万円 (前年同期実績 △306百万円)

- 売上高は、前年同期を大きく上回り、高い水準となった
- 損益面では、工事原価の先行、追加変更交渉の継続により、利益水準は低調であった

損益計算書

(単位：百万円)

	2023年3月期 2Q累計		2024年3月期 2Q累計			
	実績		実績		対前年同期増減	前年同期比
売上高	16,503		27,540		+11,037	+66.9%
営業利益	△436		△83		+352	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	△306		55		+362	—
一株当たり四半期純利益	△65.91円		11.95円		+77.86円	—
受注高	23,686		23,581		△104	△0.4%
橋梁事業	6,926	構成比 29.2%	6,125	構成比 26.0%	△801	△11.6%
鉄骨事業	16,432	構成比 69.4%	16,730	構成比 70.9%	+298	+1.8%
インフラ環境事業	327	構成比 1.4%	726	構成比 3.1%	+398	+121.6%
受注残高	64,412		61,248		△3,164	△4.9%
橋梁事業	26,022	構成比 40.4%	25,648	構成比 41.9%	△373	△1.4%
鉄骨事業	38,040	構成比 59.1%	34,883	構成比 56.9%	△3,157	△8.3%
インフラ環境事業	349	構成比 0.5%	716	構成比 1.2%	+366	+104.8%

■ 橋梁事業

(単位：百万円)	2023年3月期 2Q累計	2024年3月期 2Q累計		
	実績	実績	対前年同期増減	前年同期比
売上高	6,435	10,097	+3,661	+56.9%
セグメント利益	176	920	+744	+422.7%
受注高	6,926	6,125	△801	△11.6%
受注残高	26,022	25,648	△373	△1.4%

- 売上高は、前年同期比 +56.9% 増加となり、過去10年間で最高水準
- 損益面では、順調な工事進捗と変更契約計上により大幅増益
- 中部地方整備局より大型案件を受注し、受注残高は引き続き高水準を確保

■ 鉄骨事業

(単位：百万円)	2023年3月期 2Q累計	2024年3月期 2Q累計		
	実績	実績	対前年同期増減	前年同期比
売上高	9,616	17,041	+7,424	+77.2%
セグメント利益	100	△322	△422	—
受注高	16,432	16,730	+298	+1.8%
受注残高	38,040	34,883	△3,157	△8.3%

- 売上高は、大型再開発工事で前年同期比 +77.2% 増加となり、過去10年間で最高水準
- セグメント利益は、一部大型工事で工期遅延や原価先行が発生し赤字
- 首都圏を中心とした再開発案件などで受注残高は引き続き高水準を確保

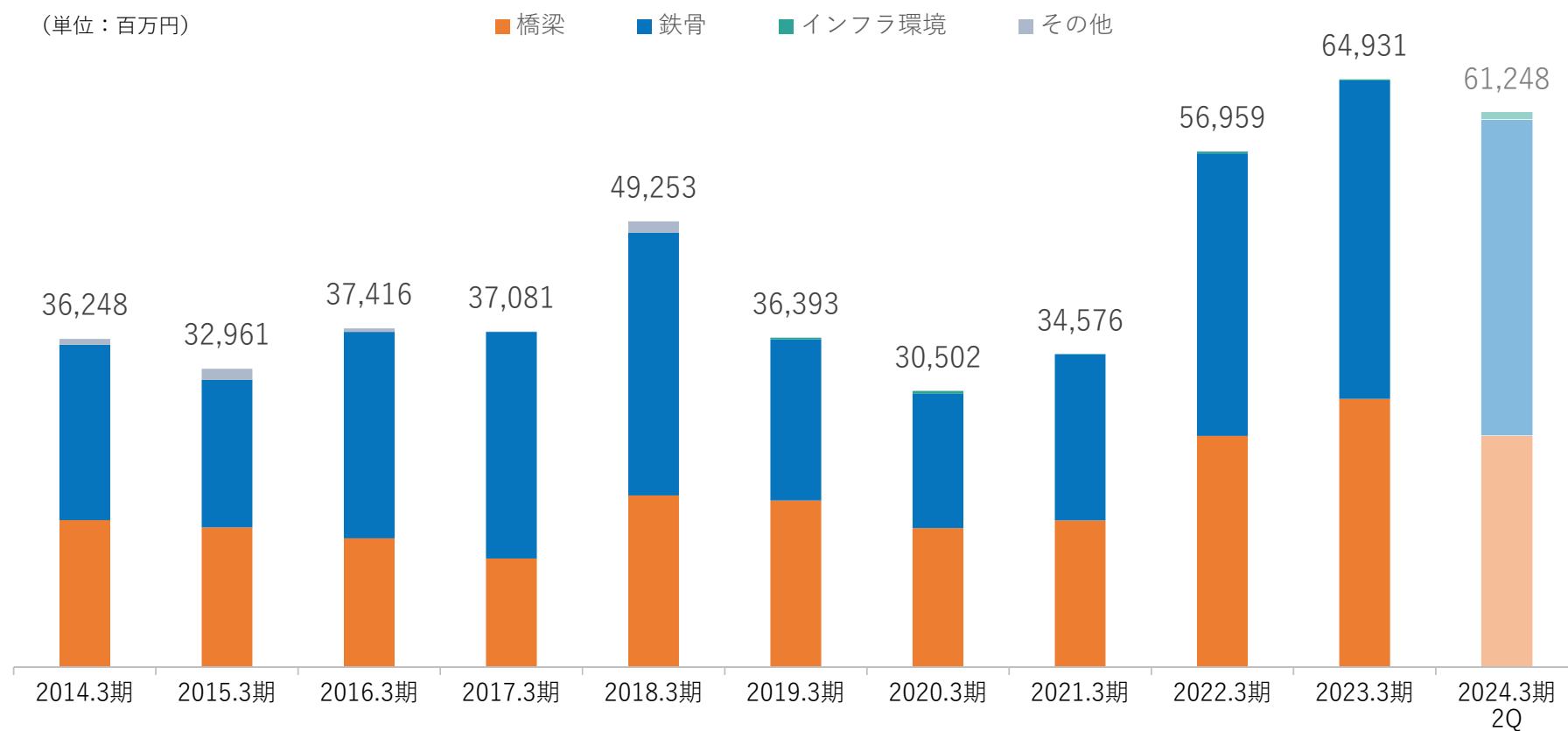
■ インフラ環境事業（再生可能エネルギー・海外インフラ事業）

	2023年3月期 2Q累計	2024年3月期 2Q累計		
	実績	実績	対前年同期増減	前年同期比
(単位：百万円)				
売上高	181	126	△55	△30.4%
セグメント利益	△123	△108	+15	—
受注高	327	726	+398	+121.6%
受注残高	349	716	+366	+104.8%

- 試験研究および新たな製造ライン整備といった先行的な投資活動を展開
- 売上高は△30.4%減少、セグメント利益は赤字
- 受注では、陸上風車建設案件を獲得し前年同期比+121.6%増

■ 受注残高の推移

- 当社が強みを発揮できる大型案件の発注が増加しており、橋梁と鉄骨の両方で受注が積みあがっている



貸借対照表

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期 2Q	主な増減要因
流動資産	38,891	40,995	<ul style="list-style-type: none"> 電子記録債権 +2,099 受取手形、完成工事未収入金及び契約債権 +559
固定資産	22,236	24,242	<ul style="list-style-type: none"> 投資その他の資産 +1,769 有形固定資産 +266
資産合計	61,127	65,237	
流動負債	20,687	22,262	<ul style="list-style-type: none"> 電子記録債務 +1,685 未成工事受入金 △272
固定負債	10,577	11,908	<ul style="list-style-type: none"> 長期借入金 +490
負債合計	31,265	34,171	
純資産合計	29,862	31,065	<ul style="list-style-type: none"> その他有価証券評価差額金 +1,283
負債・純資産合計	61,127	65,237	

■ キャッシュ・フロー計算書

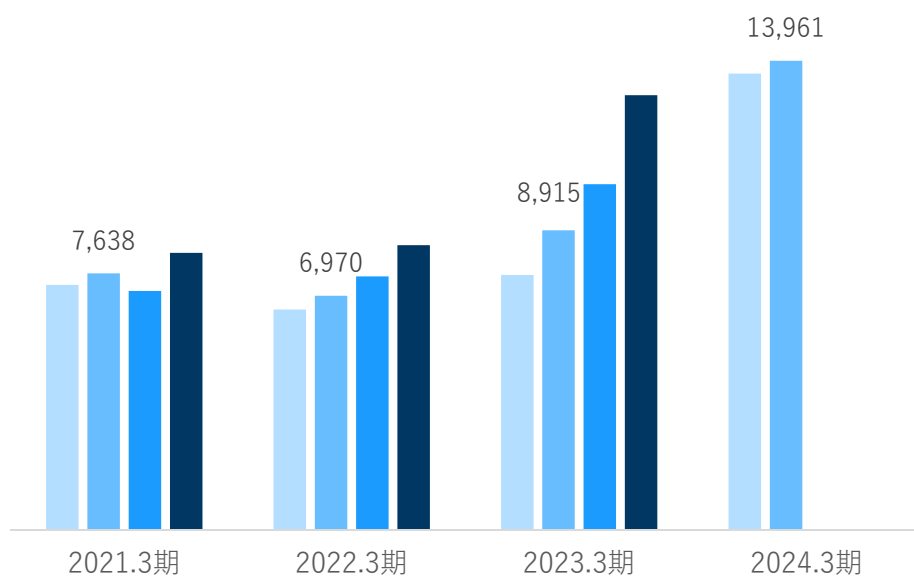
(単位：百万円)	2023年3月期 2Q累計	2024年3月期 2Q累計	当期の主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	△1,684	△ 1,118	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売上債権の増加 △2,658 ・ 仕入債務の増加 +1,794
投資活動による キャッシュ・フロー	△277	△ 286	<ul style="list-style-type: none"> ・ 固定資産の取得 △413 ・ 補助金の受取額 +125
財務活動による キャッシュ・フロー	△284	283	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期借入れ +1,058 ・ 社債の償還 △980
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△2,241	△ 1,119	
現金及び現金同等物の 期末残高	10,096	6,763	

■ 四半期ごとの売上高・営業利益推移

- 第1四半期は利益の積み上がりが弱く、第2四半期以降に利益が積みあがる傾向

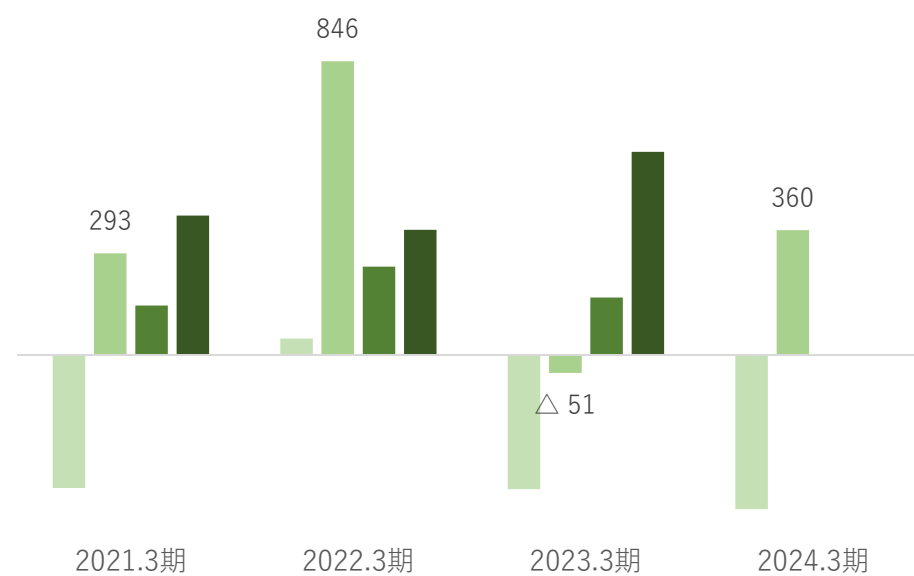
売上高

■ 4-6月 ■ 7-9月 ■ 10-12月 ■ 1-3月



営業利益

■ 4-6月 ■ 7-9月 ■ 10-12月 ■ 1-3月



2024年3月期業績予想



損益計算書

	2023年3月期	2024年3月期		
	実績	予想	対前期増減	前期比
売上高	39,727	54,000	+14,273	+35.9%
橋梁事業	14,495	20,250	+5,755	+39.7%
鉄骨事業	24,237	32,200	+7,963	+32.9%
インフラ環境事業 (再生可能エネルギー・海外インフラ事業)	454	1,000	+546	+120.3%
不動産事業 他	540	550	+10	+1.8%
営業利益	315	900	+585	+184.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	328	600	+272	+82.6%

業績予想の根拠

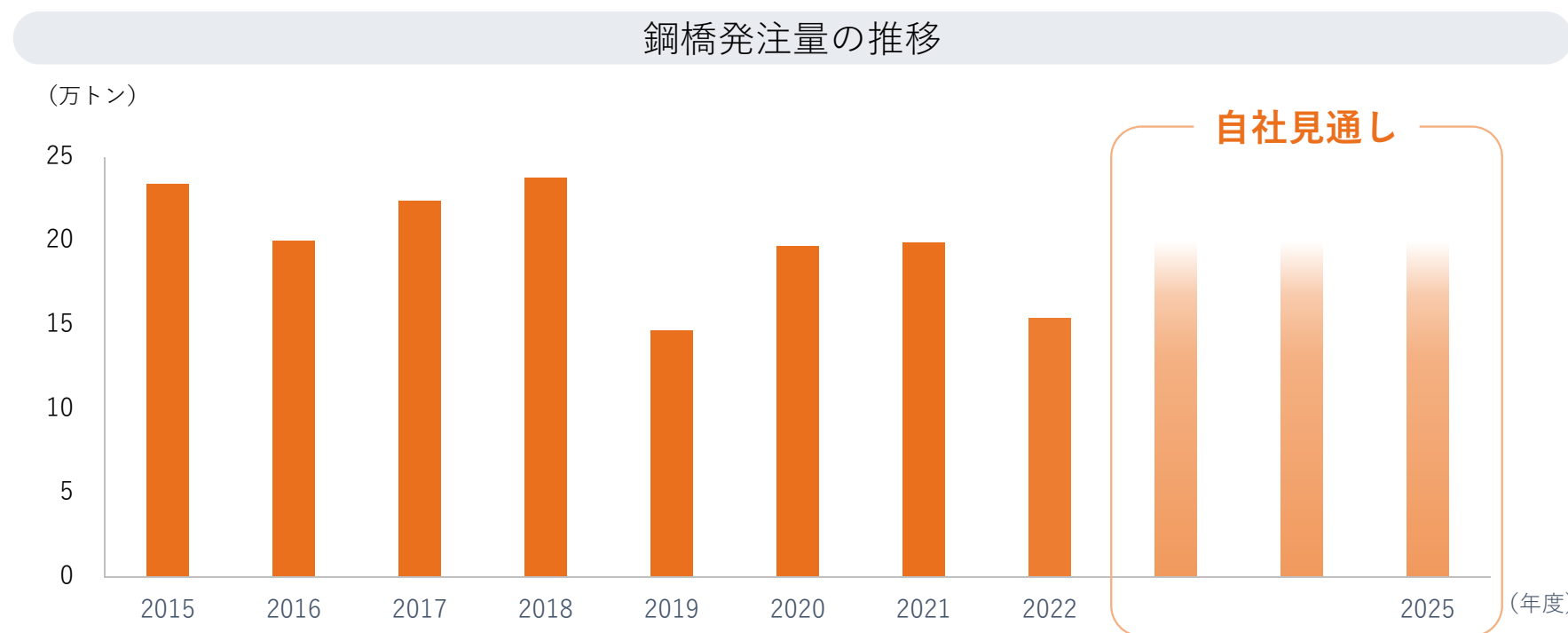
- 橋梁、鉄骨ともに高水準の受注残高を背景に売上高増加を見込む
- 損益面は、売上高増加の影響と生産性向上の効果で増益を見込む

市場環境 · 成長戰略



■ 事業環境の見通し（1）橋梁事業

- 近時は年間発注量15～20万tの水準にて推移。また、金額ベースでは補修保全の割合が増加
- 中期経営計画2023の期間中は、大阪湾岸道路西伸部といった大型発注が見込まれ、年間20万t前後レベルの発注推移を見込む

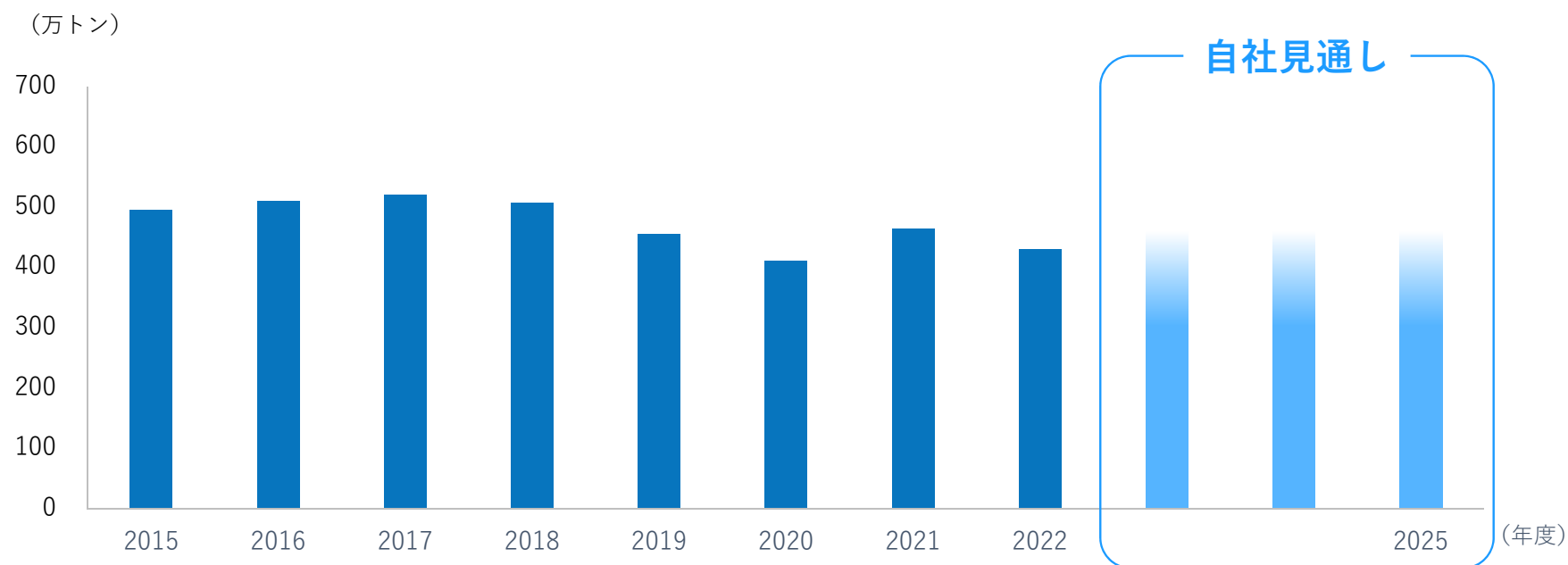


（出典）一般社団法人日本橋梁建設協会「耐候性鋼橋実績資料集」より抜粋

■ 事業環境の見通し（2）鉄骨事業

- 中期経営計画2023の期間中は、460万tレベルの安定推移が見込まれる
- 首都圏再開発の高層ビル事業が活発化し、Sランク工場を有する当社が優位性を発揮できる市場は、活況となることが見込まれる

鉄骨需要の推移



(出典) 一般社団法人日本鉄鋼連盟 建築委員会「鉄骨建築関連統計・図表」

■ 建設中・計画中の再開発プロジェクト一覧

■ 日本全国で大型再開発が続く

東京

東京駅周辺

- ・ 八重洲一丁目東B地区再開発事業（2024年度）
- ・ 八重洲一丁目北地区再開発事業・南街区（2028年度）
- ・ 八重洲二丁目中地区再開発事業（2028年度）
- ・ 八重洲二丁目南地区再開発事業（2028年度）
- ・ 内幸町一丁目街区南地区（サウスタワー：2026年度）
- ・ 内幸町一丁目街区中地区（セントラルタワー：2028年度）
- ・ 内幸町一丁目街区北地区（ノースタワー：2030年度）
- ・ 日本橋一丁目中地区再開発事業・C街区（2025年度）
- ・ 日本橋一丁目東地区開発・A街区（2030年度）
- ・ 日本橋一丁目1・2番地区開発・A街区（2032年度）
- ・ トウキョウ トーチ・トーチタワー(常盤橋プロジェクト)（2027年度）
- ・ 新TODAビル計画新築工事（2024年）
- ・ 外神田1,2,3番再開発・A街区（2028年度）
- ・ 京橋三丁目東地区再開発事業（2029年度）

赤坂・虎ノ門

- ・ 赤坂二丁目プロジェクト（一期：2024年・二期：2025年）
- ・ 赤坂二丁目計画(国際赤坂ビル建替事業)（2024年）
- ・ 赤坂二・六丁目地区開発計画（2028年）
- ・ 虎ノ門一丁目東地区再開発事業（2027年）

浜松町・品川・田町・芝浦

- ・ 品川駅西口地区A地区（2026年度）
- ・ 品川駅西口地区C地区（2027年度）
- ・ 品川開発プロジェクト・4街区（2024年度）
- ・ 品川開発プロジェクト・3街区（2024年度）
- ・ 東工大田町キャンパス土地活用事業・施設A（2032年）
- ・ 芝浦一丁目計画新築工事N棟（2030年度）

渋谷・新宿・五反田・池袋

- ・ 渋谷二丁目西地区再開発事業・B街区（2029年度）
- ・ 道玄坂二丁目南地区再開発事業（2026年度）
- ・ 西新宿一丁目地区プロジェクト(明治生命安田ビル他跡地)（2025年）
- ・ 新宿駅西口地区再開発事業（2029年）
- ・ 東五反田2丁目計画（2024年）
- ・ 東池袋一丁目地区再開発事業（2026年度）

横浜

- ・ 横浜市旧市庁舎街区活用事業（2025年）
- ・ みなとみらい21 中央地区52街区開発事業（2026年度）
- ・ みなとみらい21 中央地区62街区開発事業（2026年）
- ・ 関内駅前港町地区再開発事業（2029年度）

仙台

- ・ 仙台市役所本庁舎建替（2030年度）

札幌

- ・ 札幌駅交流拠点北5西1西2地区市街地再開発事業（2028年度）

※（ ）は竣工予定年度

■ 事業環境の見通し (3) インフラ環境事業

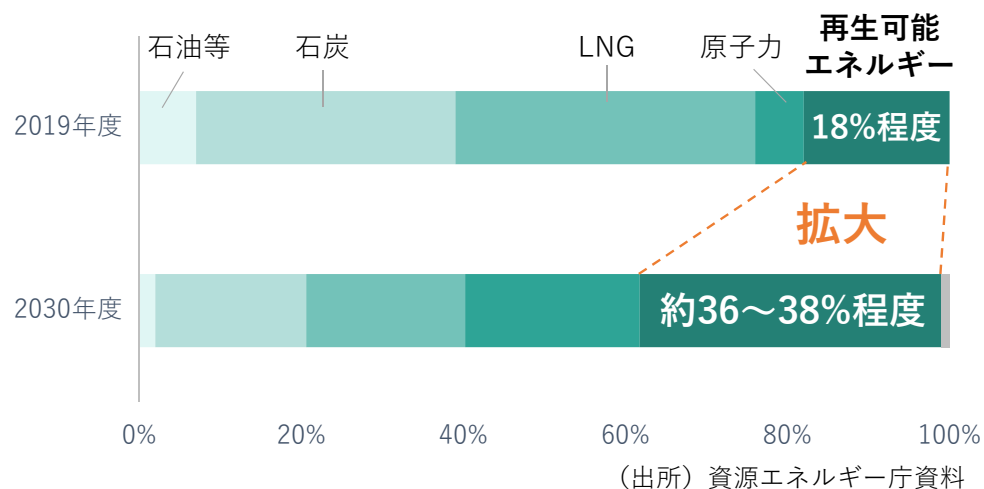
- 第1次洋上風力産業ビジョンにて、2030年までに10GW、2040年までに30～45GW、国内調達比率目標60%を目指すことが明記された
- 洋上風力発電は、再生可能エネルギーの主力電源化に向けた切り札として期待され、その市場拡大が見込まれる

エネルギー基本計画 (第6次)

※資源エネルギー庁・2021年10月発表

再生可能エネルギーの構成比が上方修正された

再生可能エネルギー電源構成推移

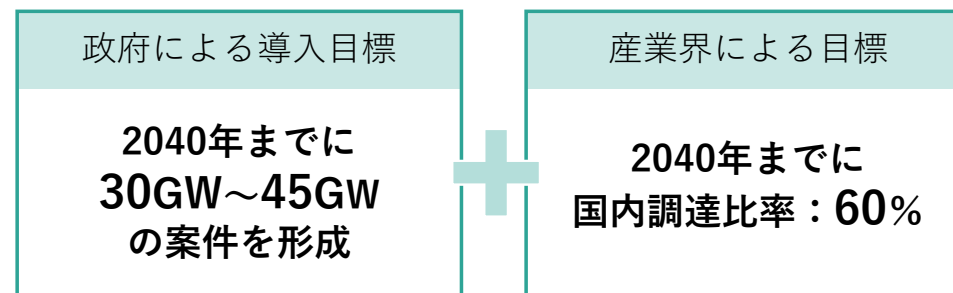


風力発電の国産化を進める方針

洋上風力産業ビジョン(第1次)

※洋上風力の産業競争力強化に向けた官民協議会

<2020年12月発表>



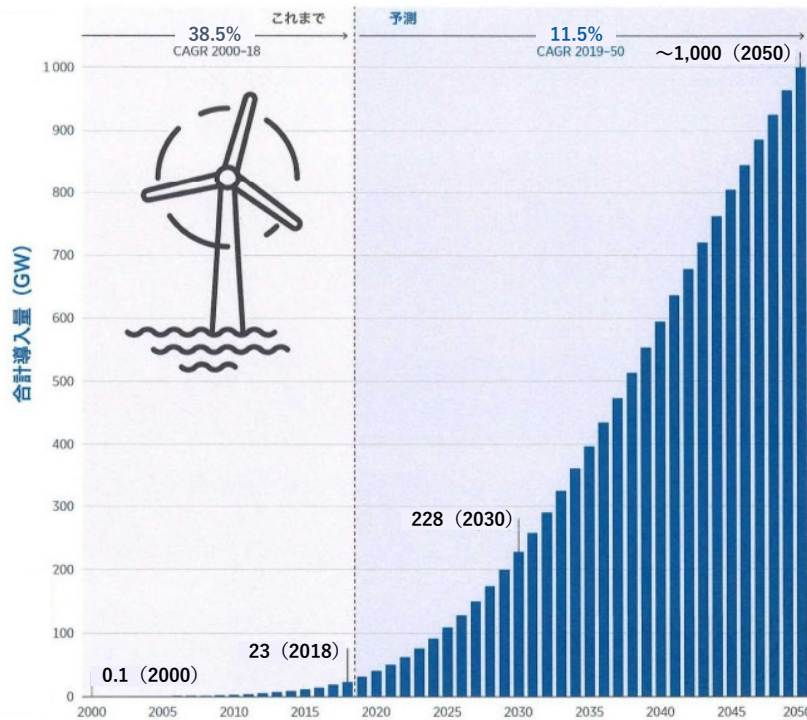
事業環境の見通し (3) インフラ環境事業

世界

急伸長する世界の洋上風力発電

2050年までに1,000GWの導入が見込まれる

■ 世界全体洋上風力導入量



Source : IRENA 2019a, Future of Wind

Historical values based on IRENA's renewable capacity statistics (IRENA, 2019d), future projections based on IRENA's analysis (IRENA, 2019a).

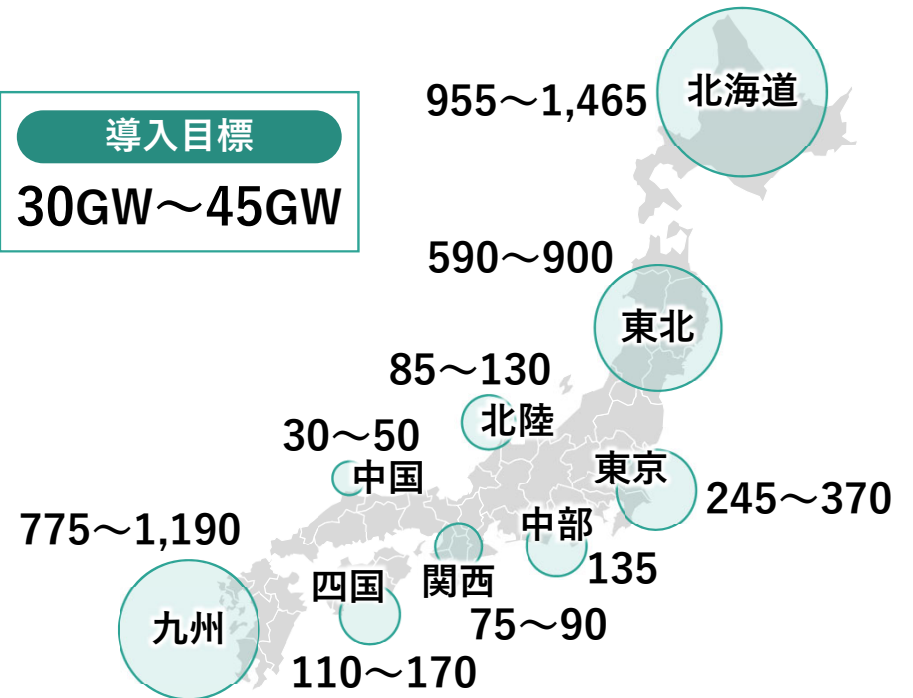
日本

国内の洋上風力発電導入の動き

2050年までに温室効果ガスゼロを目指すことが宣言された

(単位：万キロワット)

導入目標
30GW~45GW



(出典) 2050CN実現のための基地港湾のあり方検討会「国内外の洋上風力発電の将来展望～脱炭素の最有力手段」より抜粋
自然エネルギー財団「洋上風力発電に関する世界の動向[第2版]」2021年6月

■ 中期経営計画2023 基本方針、基本戦略

基本方針	基本戦略	
<p>「技術力とブランド力」に磨きをかけ、社会の発展に貢献する</p>	<p>受注ポートフォリオを再構築し、経営資源の活用レベルを引き上げ、事業価値の底上げを図る</p>	<p>サステナビリティ経営ならびにマテリアリティへの取り組みを通じ企業価値を高める</p>
<p>新技術の開発とDXの推進により、新たな事業モデルと市場の開拓に取り組む</p>	<p>風車ビジネスの先駆者として、新たな領域となる「洋上風車タワー」の製造にチャレンジし、カーボンニュートラル社会の実現に貢献する</p>	<p>技術力の源泉となる人的資本への取り組みを強化し、働き方改革を通じて人財の活性化を図る</p>
<p>収益志向を高め、業績の飛躍的向上を果たし、あわせて企業価値を高める</p>	<p>安全と品質をベースにモノづくり改革に取り組み、大型インフラ事業での貢献を通じ収益を極大化する</p>	<p>ガバナンスと情報発信を強化し、ステークホルダーの期待に応える</p>

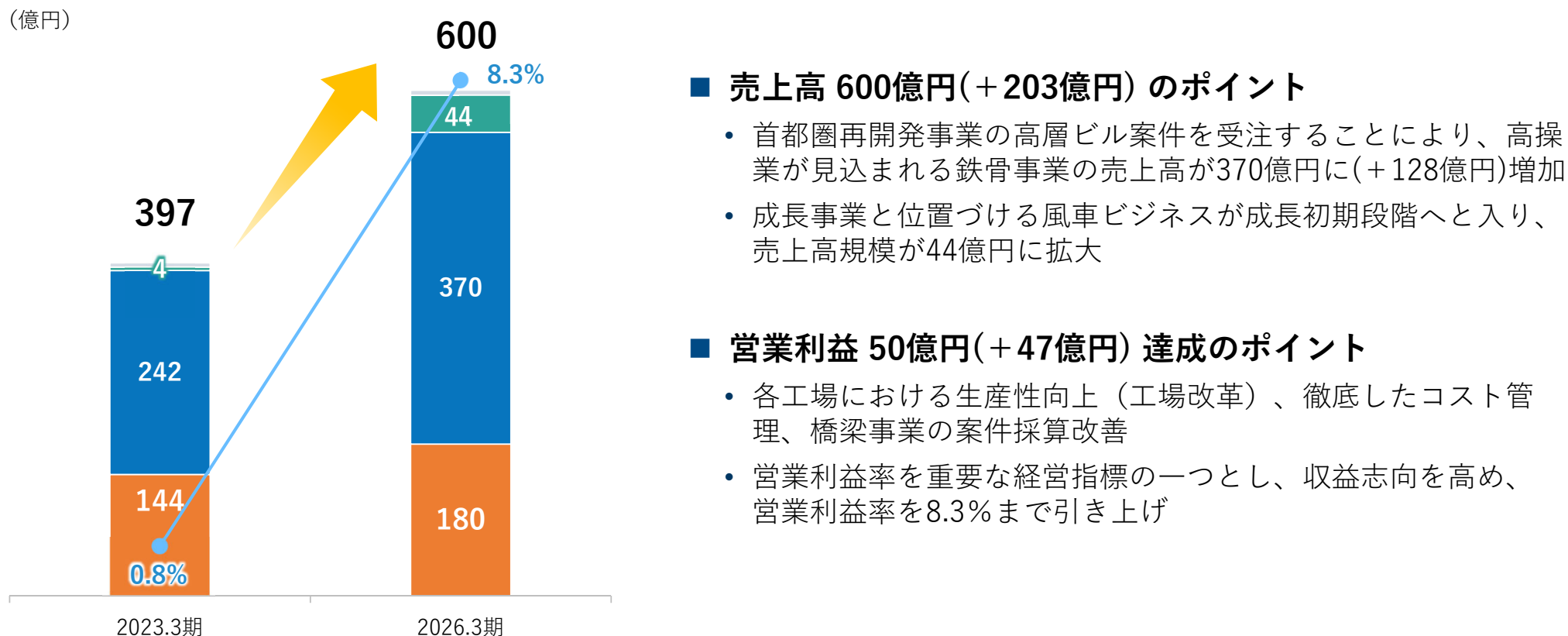
■ 中期経営計画2023 数値目標

(単位：百万円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	2026年3月期 目標
売上高	39,727	54,000	60,000
橋梁事業	14,495	20,250	18,000
鉄骨事業	24,237	32,200	37,000
インフラ環境事業 (再生可能エネルギー・海外インフラ事業)	454	1,000	4,400
その他	539	550	600
営業利益	315	900	5,000
営業利益率	0.8%	1.7%	8.3%
経常利益	481	1,100	4,700
親会社株主に帰属する当期純利益	328	600	3,300

■ 中期経営計画2023 目標達成の考え方

■ 橋梁 ■ 鉄骨 ■ インフラ環境 ■ その他 ● 営業利益率



■ 売上高 600億円(+203億円)のポイント

- 首都圏再開発事業の高層ビル案件を受注することにより、高操業が見込まれる鉄骨事業の売上高が370億円に(+128億円)増加
- 成長事業と位置づける風車ビジネスが成長初期段階へと入り、売上高規模が44億円に拡大

■ 営業利益 50億円(+47億円) 達成のポイント

- 各工場における生産性向上（工場改革）、徹底したコスト管理、橋梁事業の案件採算改善
- 営業利益率を重要な経営指標の一つとし、収益志向を高め、営業利益率を8.3%まで引き上げ

■ 中期経営計画2023 進捗状況と取り組み・対策

橋梁事業

大型案件受注への注力

主な取り組み

- 「令和5年度 247号西知多道路 東海JCT・H2 ランプ橋鋼上部工事」を受注
- 大阪湾岸道路 西伸部工事などの大型工事受注に向け注力



大阪湾岸道路西伸部工事
完成イメージ

鉄骨事業

高操業への対応

主な取り組み

- 竣工後に国内最高層ビルとなる東京トーチビル案件を受注
- 鋼構造生産本部の機構改革により、生産司令塔機能を強化
- 高操業に対応した富津工場の置場敷地拡張



駒井ハルテック 富津工場

インフラ環境事業

積極的な設備投資

主な取り組み

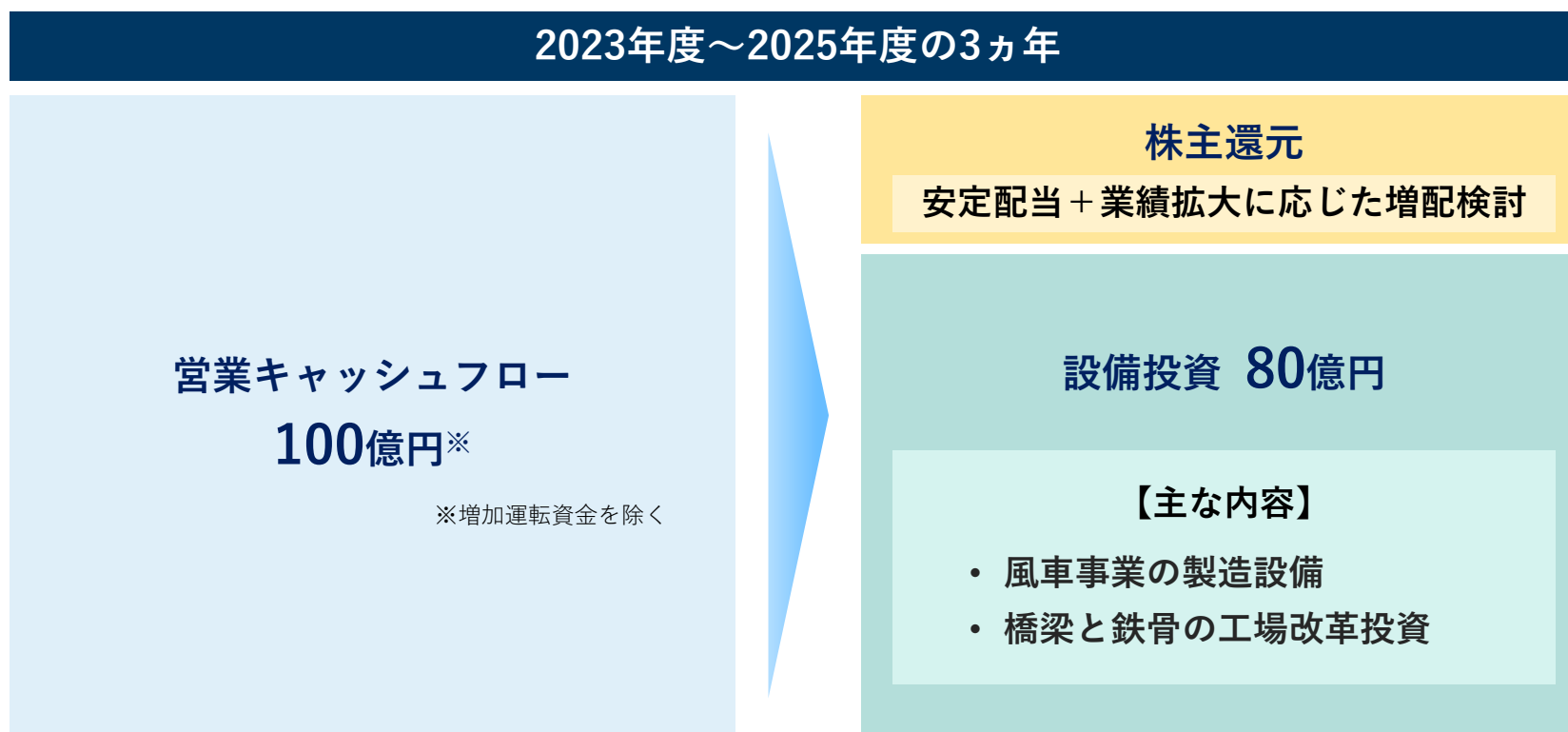
- 富津工場の洋上風車向けタワー生産ライン整備が本格化
- 陸上風車リプレース向け風車開発設計・製造設備の検討



三浦市宮川公園風車

■ 資金計画

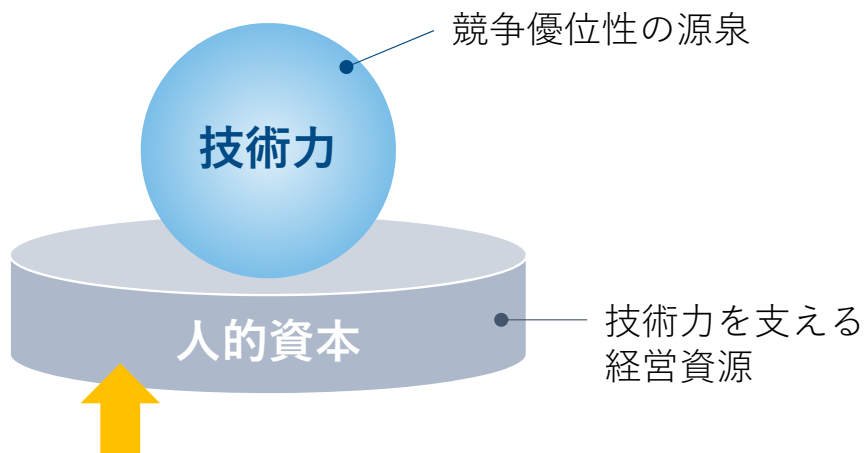
- 営業キャッシュフローを原資に 積極的な成長投資 と 株主還元 を行う



- 期間中に発生する増加運転資金⇒手元資金及び金融機関からの借入により賄う方針

人的資本戦略

人的資本の考え方



人的資本への取り組み：重要な経営課題

…多様な人財が最大限の能力を存分に発揮できるよう体制を整備

各種資格取得	スキル/経験	人財開発投資
知的財産	ダイバーシティ&インクルージョン	労働安全衛生

人的資本充実にに向けた取り組み

■ 主要テーマ

- 各種資格取得の推進や高度なスキル/経験保有者の増強により、技術力を背景とした対応力を強化
- 人財開発、知的財産への取り組みを強化し技術力を底上げ
- ダイバーシティ&インクルージョンを推進し、多様な人財が集い活性化した風通しのよい組織を構築
- 労働安全衛生の確保に注力し、人財が安心して最大限のパフォーマンスを発揮できる職場環境を整備

■ 主な取組施策

- 資格取得サポート、個別キャリア指導、適性に応じたジョブローテーションを実施
- 状況を定量的に把握、計画的に主要テーマを遂行

■ 持続的成長に向けた取り組み














サステナビリティ基本方針

経営理念の下、「持続可能な社会の実現」と「企業の持続的成長」を両立させるサステナビリティ経営に取り組み、中長期的な企業価値向上を実現させるために、その基本方針を以下のように定める。

地球と社会に貢献する企業を目指します

1. 地球環境の保全に取り組み、将来世代へ希望を繋ぎます。
2. 社会インフラを提供し、安全で安心な生活を支えます。
3. 人財と技術を礎に、社会課題の解決に取り組みます。
4. 高い企業倫理と企業統治により、透明公正を確保します。

マテリアリティ

目標	具体策	SDGs目標
カーボンニュートラル社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> CO2 排出削減 再生可能エネルギー施設の拡大 	  
自然災害への対応強化	<ul style="list-style-type: none"> 災害復旧対応力の強化 協力会社を含むBCP構築 	 
安全安心の社会インフラづくり	<ul style="list-style-type: none"> 品質確保（長寿命、保全更新へ対応） 責任ある供給、効率的供給の実現 	
新技術開発	<ul style="list-style-type: none"> 高難度物件への取り組み、高付加価値の提供 新たな社会ニーズ対応、資源の効率的消費 	
人財開発	<ul style="list-style-type: none"> 人財育成（キャリア支援） ダイバーシティ&インクルージョン 	  
労働安全衛生の確保	<ul style="list-style-type: none"> 災害の撲滅 労働環境の整備、働き方改革推進 	 
企業活動における透明性と公正性の確保	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスの徹底、人権尊重 ガバナンス、リスク管理の充実 	

■ コーポレートガバナンスの拡充

持続的成長と中長期的な企業価値向上

コーポレートガバナンスのさらなる拡充

株主総会の利便性向上

取締役会の機能向上

株主対話の充実

経営リスク管理の強化
コンプライアンスの徹底

サステナビリティの
取り組み強化

情報発信の充実

TCFD提言に基づく情報開示について

具体策

- 取締役会において、気候変動問題に関連したリスクや機会を踏まえたうえで経営戦略の意思決定を行う
- 「サステナビリティ委員会」での議論を経て、TCFD提言に基づく情報開示を実施

気候変動のリスクと機会が当社グループに及ぼす影響と対応策を検討するためシナリオ分析を実施

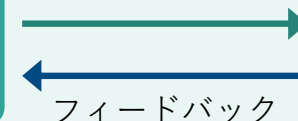
分析方法

- ・ リスクと機会を幅広く洗い出し
- ・ 事業影響が大きい項目を絞り込み
- ・ 早急に取り組み可能な対応策に着目

リスク状況の評価モニタリングを実施

サステナビリティ
委員会

議論の結果を報告



取締役会

現在の取り組み

- 2050年温室効果ガス排出ネットゼロに向けて施策を検討
- サプライチェーンを含めた排出量（Scope3）に関し、顧客や仕入れ先と協力し削減に努める

温室効果ガス削減に向けた測定

- 2013年度～ **Scope 1** **Scope 2** 当社工場にて実施
- 2021年度～ **Scope 3** 当社グループ・サプライチェーンについて実施

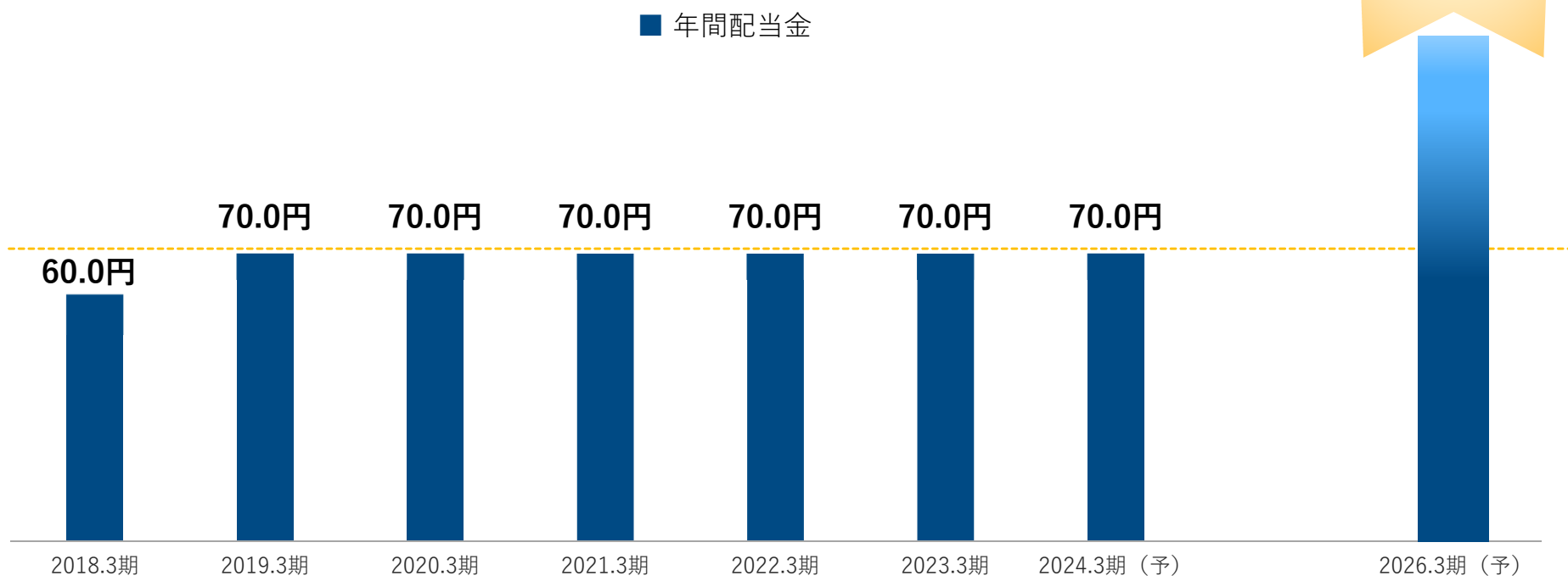


2050年度のカーボンニュートラル達成へ

株主還元

配当方針

- 競争力向上や事業拡大の投資を行いつつも、適切な還元を行う方針
- 業績の拡大に応じた増配を検討



業績の拡大に
応じた
増配を検討

■ 安全対策

建設現場の問題

- ・ 国内産業界の労働災害発生件数は高水準で推移
- ・ 橋梁・鉄骨の現場では重大災害が発生

当社グループの安全への取り組み

- 安全衛生方針である「人命尊重」を基本理念とした事業活動
- DX技術を活用した橋梁・鉄構の現場作業の見える化推進

現場の安全への取り組み

施工前	受注時	新規受注工事検討会にて工事内容の把握、問題点の洗い出し
	施工計画立案時	施工方法・仮設構造物の確認
	施工計画審査	工事着手前の計画確認
施工時	作業手順会	主要工種の施工前に作業員全員に対し作業方法の周知
	店社パトロール	現場施工期間中の安全パトロール（施工計画の実施状況確認）



安全集会



安全パトロール

Appendix



■ 大型再開発プロジェクト計画【橋梁】

■ 未来の大規模橋梁プロジェクト計画

- 下関北九州道路
(下関市～北九州市 約6km)
- 東京湾口道路
(富津～三浦半島 約10～15km)



- 紀淡海峡大橋
(紀伊半島～淡路島 約10km)



- 伊勢湾口道路
(渥美半島～志摩半島 約20km)



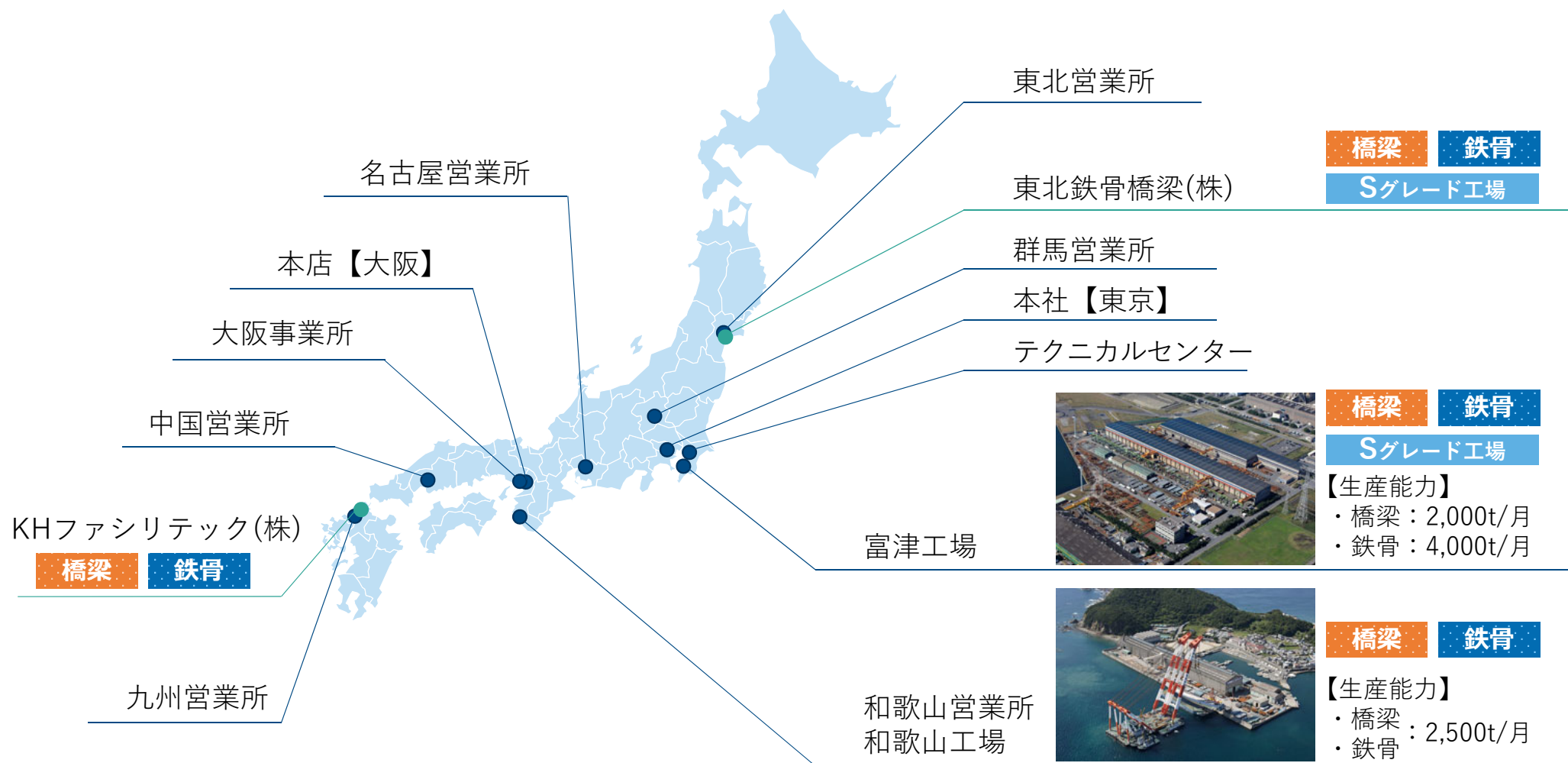
■ 大阪湾岸道路西伸部工事 (六甲アイランド北～駒栄)



沿革



事業所・工場



お問い合わせ先

株式会社 駒井ハルテック

住所 〒110-8547 東京都台東区上野一丁目19番10号

TEL 03-3833-5101

この資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。